

「——いやあ、こないだ出てたバラエティ、めっちゃ面白かったよ～めるるちゃん」  
「わあ、観てくれたんですね！　ありがとうございます～！」

……私がこの業界に入ってから、5年ほどが経ちました。

デビュー当初はあまり注目されていなかった私ですが、お仕事を続けていくうちに段々とメディア露出も増えてきて、ありがたいことに今では『テレビで見ない日はない』なんて言われたり。

「やっぱめるるちゃんはキャラがいいよね。何事にも一生懸命だし、  
視聴者からの好感度も高いしさ。……そうだ、今度俺の番組出てみない？」

「ええっ、いいんですかっ?!」

「もちろんもちろん！　そんじゃ、めるるちゃんの事務所には俺の方から話通しとくね」

「わあ、ありがとうございます～っ！　一生懸命頑張りますねっ！」

「めるるちゃんには期待してるからね！　そんじゃ、また今度よろしく～」

色んな番組のディレクターさんやプロデューサーさんとも繋がりができ、こうやってお話す際にお仕事をいただくこともあったりして、まさに順風満帆なアイドル生活を謳歌しています。

……でもでも、そんな私にも実は誰にも言えない秘密があるんです。

それは————。

「——やっぱあのプロデューサーちょっ口いわッ♥♥ ちょっと媚びただけで簡単に  
仕事くれるしっ♥♥ んおッ♥♥♥♥ あ〜そこそこッ♥♥ そのカリ首んところ  
もっと唇すぼめてぐぼぐぼしてくださいっ♥♥」

「んっ♡♡♡ んもッ♡♡♡ んぼッ♡♡♡ んぼッ♡♡♡」

毎日のようにファンの女の子を食い散らかしていることです♥

世間からは清楚だとか真面目だとか思われてるっぽいんですけど、実際は正反対♥

ライブ終わりやオフの日は適当に可愛いファンの子を連れ込んで退廃的なやりまくり  
生活を送っています♥

「ほおッ♥♥♥ それそれッ♥♥♥ それ最っ高ですっ♥♥♥ ほひッ♥♥♥

そのままイって言うまでずっとそれ続けててくださいねっ、<sup>りんな</sup>凜奈ちゃんっ♥♥♥」

「んぼッ♡♡♡ んぶッ♡♡♡ んぶうッ♡♡♡」

今日連れ込んだのは一人でライブに来ていた中学3年生の『<sup>しらぎく</sup>白菊 <sup>りんな</sup>凜奈』ちゃんです♥

女子中学生や高校生はまだ精神的に未成熟で、憧れと色恋の感情が一緒くたになってる  
ちょっ口い子も多いので簡単に喰えちゃいます♥

特に一人で来てる子は狙い目です♥

止めてくる保護者や友達がないので楽なんですよ♥

「うひッ♥♥♥ やっベッ♥♥♥ 女子中学生にフェラさせんの背徳感エグすぎて

もうザーメンアガってきちゃったッ♥♥♥ ちょっとごめんね凜奈ちゃんッ♥♥♥」

「——んぶうッ?!♡♡♡♡♡」

——がしいッ♥♥♥♥

……ばぢゅッ♥♥♥ ぶぢゅッ♥♥♥ ぶぢゅらッ♥♥♥♥

と、フェラさせていたら早速ザーメンが込み上げてきちゃいました♥  
凜奈ちゃんの頭を両手でガッチリ掴んで自分勝手に動かしてラストスパートです♥

「んぶッ♥♥♥♥ んごッ♥♥♥♥ がッ♥♥♥♥」

「あ～イクイクイクイクいくッ♥♥♥♥ 女子中学生喉オナホにアイドル  
ザーメンぶっ放しちゃいますっ♥♥♥♥ ほおお“お”ッ——♥♥♥♥」

……ほぶびゅッ♥♥♥♥ どびゅぶびゅりゅりゅ～ッ♥♥♥♥

「んごぶッ?!?!?♥♥♥♥」

「んおお“お”ッ♥♥♥♥ こっこれヤバッ♥♥♥♥

すっげえ濃ゆいザーメン射精てますッ♥♥♥♥ ほひッ♥♥♥♥

ほおお“お”ッ♥♥♥♥」

——ぐりぐりぐりぐりいッ……♥♥♥♥

グリグリと腰を押し付けて喉奥にどびゅどびゅ開始です♥  
凜奈ちゃんが苦しそうに暴れていますが、射精が終わるまではずっとこのままです♥  
凜奈ちゃんの呼吸なんかよりも私の射精快樂の方が何倍も大事ですからね♥

「んぶッ♡♡♡♡♡ んぶらッ♡♡♡♡♡ んッ——ごきゅんッ♡♡♡♡♡  
ごくッ♡♡♡♡♡ ごくんッ……♡♡♡♡♡ ごきゅんッ……♡♡♡♡♡」

逃れられないと悟ったのか、せめて溺れないよう必死にザーメンを飲み下し始める  
凜奈ちゃん♡  
一生懸命ごきゅごきゅ喉鳴らして飲んでてとっても可愛いですね♡  
嗜虐欲が刺激されちゃいます♡

——どびゅッ……♡♡♡♡♡ どぷッ……♡♡♡♡♡ びゅッ……♡♡♡♡♡ びゅくッ……♡♡♡♡♡

「——ほッ……♡♡♡♡♡ ふッ……♡♡♡♡♡ ふ～……♡♡♡♡♡ あゝ～射精した射精した……♡♡♡♡♡  
……凜奈ちゃん、大丈夫ですか？♡♡」

「んッ……！♡♡♡♡♡ んぶッ……！♡♡♡♡♡」

「あっ、まだおちんぼ挿入れたままでした♡♡ ごめんなさい、今抜きますね♡♡♡♡♡  
ふッ——♡♡♡♡♡」

——ずろろろろろッ……にゅぽんッ♡♡♡♡♡♡♡♡♡

「んぐッ♡♡♡♡♡ んっ、はあっ、はあっ、はああっ……♡♡♡♡♡♡♡♡♡

「んぶッ……げえええっつぷっ♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

「うわ、ザーメンゲップすご♡♡♡♡♡ んふふ、ちゃ～んとザーメン全部飲み干せて  
偉いですよ～♡♡♡♡♡」

「んっ……♡♡♡♡♡ えっ、えへへっ……♡♡♡♡♡ んッ、けぷっ……♡♡♡♡♡」

憧れのトップアイドルに褒められたのがよっぽど嬉しかったのか、それが今まで自分を苦しめてた相手だってことも忘れて喜んじゃってます♥  
ホントに盲目ファンって扱いやすいですよ♥

「……あ、そうだ♥ 頑張った凜奈ちゃんにはご褒美をあげなきゃですね♥♥」

「んえ……？♥♥ ごっ、ごほうび、ですか……？♥♥」

「んふふ、ちょっと待ってくださいね〜♥ 確かこの辺に隠してたはず……、

ああ、あったあった♥」

そう言ってバッグから取り出したのは——♥

「じゃ〜ん♥ 幸せになれちゃうやつで〜す♥ これ最近買ったやつなんですけど、効き良すぎて最近毎日吸っちゃってるんですよ〜♥♥♥」

「……えっ？」

こないだ先輩から買ったドラッグ……じゃなかった、『白いお菓子』です♥

中南米産のめちゃくちゃ良質なやつ♥

これまでやってたヤツとは一線を画すレベルでキくんですよ♥、これ♥

その分やっぱりハチャメチャに高かったんですけど、キメセクの超絶快樂には換えられませんからね♥

アイドルとしての収入5ヶ月分くらいの大金を支払って大量に仕入れちゃいました♥

「あっ、あのっ……！ こっ、これって危ないやつなんじゃっ……」

「だいじょーぶだいじょーぶ♥♥ こんな私の周りにはみーんなやってますし♥♥

むしろこれ吸ってやっと大人の仲間入りって感じですよ♥♥ それにこれ合法なので

何の問題もないですからね♥♥」

私の取り出した白い粉を見て明らかに動揺している凜奈ちゃんを落ち着かせるために、  
適当にそれっぽいことを言って誤魔化します♥

実際はバチバチにアウトな成分しか入ってませんけどね♥

まあ私は事務所ぐるみで警察の偉い方たちとのコネがあるのでバレても絶対に  
捕まりませんが♥

しかしながら、まだ自分で善悪の判断ができない年頃の凜奈ちゃんは、  
私のそんな甘い言葉で完全に安心しきっちゃったみたいで……♥

「あっ……そっ、そうなんですわねっ……♡♡ よっ、よかったあっ……♡♡  
みんなやってるんだっ……♡♡」

「ええ、みんなやっていますよ♡♡ だから怖がる必要なんてないですからね♡♡」

——さらさらさら……。

「わ、すごっ……♡♡ なっ、なんかイケないことしちゃってるみたいっ……♡♡」  
「んふふ……♡♡」

その通り、めちゃくちゃイケないことやっちゃっています♥

自分のことを大人だって思い込みたい年頃の子って騙しやすくってホント助かりますね♥

「ほら、そのまま一気に吸っちゃってください♡♡ とっても幸せな気分になれます  
からね♡♡」

「わっ、わかりましたっ……♡♡♡ いっ、いきますっ……♡♡♡

……すっっ——～～ツツツ？！！？！♡☆♡☆♡☆♡」

——ぷしッ♡♡♡♡♡ ♪ぷしいッ♡♡♡♡♡

「うわっ！？♥♥ ちょっと、大丈夫ですかっ？♥♥♥」

「ひっ♡♡♡♡ にゃっ、にゃにこれっ？！♡♡♡♡♡ いひっ♡♡♡♡

イクイクイクいくっ♡♡♡♡♡ ほおうおお“お”っ！？♡♡♡♡♡

なっ、なんにもしてないのにおまんこイってうっ！？！♡♡♡♡♡

んお“お”っ、ほおおお“お”っ？！！？♡♡♡♡♡」

「あらら、ちょっと多すぎちゃいましたかね……？♥♥ まいっか……♥♥」

そこら中に潮を撒き散らしながら、電気を流されたカエルみたいに手足をジタバタさせてイキ苦しんでいる凜奈ちゃん♥

冷静に考えてみたら、女子中学生にいきなり成人男性分の量は多すぎたかもですね♥

まだ14歳なのにこんな暴力的な快楽知っちゃったら、もう元の生活には戻れないかもです♥

そんな凜奈ちゃんのヤクキメおまんこダンスはしばらく続き——♥

「——んお“お”っ……♡♡♡♡♡ おお“お”っ……♡♡♡♡♡」

「んふふ……♥♥ だいぶ深くまで浸透してきたみたいですね……♥♥」

凜奈ちゃんがベッドの上で足を半開きのまま、うめくような低い声で喘いでいます♥

だいぶ反応が落ち着いてきたように見えますが、実際は真逆です♥

身体の深いところにまでクスリが浸透してしまい、感度が元の十数倍以上になっちゃってるんです♥

そのため『声を出す』というほんの少しの刺激でさえ絶頂しかねないので、慣れてない子はだいたいみんなキマるとこんな感じで低い喘ぎ声しか呟けなくなっちゃいます♥

……まあ、キメセクガチ交尾が始まったらそうも言ってられませんけどね♥

「それじゃあ私も……♡♡ んっ……スウっ——ツくふうッ♡☆♡☆♡☆♡

あゝ～やっべえキマるキマるキマるッ……♡♡♡♡♡

脳にガツンと響くらッ……♡♡♡♡♡ くひッ……♡♡♡♡♡」

あ～コレコレ♡

やっぱキメた瞬間は何度経験してもたまりませんね♡

しかもこれ、即効性がこれまでやってきたクスリと段違いで凄いんです♡

吸った途端から普通の生活じゃ絶対に味わえないほどの幸せが溢れてきちゃいます♡

そして何よりも、このドラッグの最大の特徴は——♡

「おお”お”ッ……♡♡♡♡ ほおお”お”ッ……♡♡♡♡」

「ツッ……♡♡♡♡🔥🔥」

——ビキビキビキッ……♡♡♡♡🔥🔥

「ふーッ……♡♡♡♡🔥🔥 ふーッ……♡♡♡♡🔥🔥」

——びとっ……♡♡♡♡🔥

「はえ……？♡♡♡♡」

「ふんん”ッ——♡♡♡♡🔥🔥」

——ばっぢゅんツッ♡♡♡♡🔥🔥



「—うぎゅふッ?!?♡♡♡♡♡♡」

「ふんッ♡♡♡♡♡ 人が気持ちよくヤク吸ってる時に無防備に  
おまんこ曝しやがってッ♡♡♡♡♡ ゆっくり楽しみてえのにチンポ  
イラつかせんやッ♡♡♡♡♡ ふッ♡♡♡♡♡ ふんッ♡♡♡♡♡」

……そう、このドラッグをふたなり女性が吸入すると、孕ませ本能が急速に刺激されて  
オラつきオス欲が高まってしまいます♡

その結果、いつも以上にオス欲にまみれた乱暴な交尾になってしまうのですが……、  
それがたまらなく気持ちいいんです♡

解放されたオラつき欲のままに弱者を虐げて得る最低な快樂♡

これはもう交尾と言うよりも『おまんこ蹂躪』と言った方が正しいかもしれません♡

「オラ死ねッ♡♡♡♡♡ おまんこイキ死ねやッ♡♡♡♡♡

ふッ♡♡♡♡♡ ふうッ♡♡♡♡♡」

—ばちゅうんッ♡♡♡♡♡ ばちゅうんッ♡♡♡♡♡

えげつないほどの下品音を響かせて凜奈ちゃんのおまんこをボコリ尽くします♡

リミッターが外れたオラつき暴力で立場の弱い雑魚メスを支配する快感♡

アイドルとしてファンに笑顔を届けることなんかより何万倍も気持ちいいです♡

「おぎよッ?! ♡♡♡♡♡ ほぎっひッ! ?? ♡♡♡♡♡♡

ほおお`お`オ`オ`ッ?! ? ♡♡♡♡♡♡

一方で凜奈ちゃんの方も、オーバードーズ気味の量のドラッグと暴力的おまんこ蹂躪の両方で直接脳をぶん殴られるような快感に訳が分からなくなっちゃってるみたいですよ♡  
さっきからずっと男ですら出さないようなきったないオホ声で啼き叫んじゃってます♡

「んな声出しても絶対手加減してやんねえからなあッ ♡♡♡♡ ♡♡

その歳で経験したら終わる快樂喰らって反省しろやッ ♡♡♡♡ ♡♡

おらッ ♡♡♡♡ ♡♡ ♡♡ ♡♡ ♡♡

もちろんそんな凜奈ちゃんの悲鳴のような喘ぎ声を聞いても一切容赦しません♡  
むしろ嗜虐心が刺激されて逆効果です♡  
ピストン一発一発に全体重を掛けておまんこを耕し潰します♡  
……そうこうしているうちに——♡

——どくんッ…… ♡♡♡♡♡

「うあ`ッ?! ♡♡♡♡♡ うぐああ`あ`あ`アッ ♡♡♡♡♡

キタキタキタあッ ♡♡♡♡ ♡♡ ♡♡ ♡♡ ♡♡ ♡♡

うほッ ♡♡♡♡ ♡♡ ♡♡ ♡♡ ♡♡ ♡♡

私の方もドラッグが完全に深くまで浸透しちゃったみたいですよ♡  
幸福感やら無敵感やらが限界突破して、さっきまでよりもさらに重く絶望的な量の多幸福感に包まれながらの背徳交尾で快樂を貪ります♡

「くっひッ♥♥♥♥♥🔥 おらッ寝んなやッ♥♥♥♥♥🔥🔥

さっきより雑魚まんこの締め付け弱まってんぞッ♥♥♥♥♥🔥🔥

ふんッ♥♥♥♥♥🔥🔥 ふんッ♥♥♥♥♥🔥🔥」

「おぎッ♡☆♡☆♡☆♡♡ へにゅッ♡☆♡☆♡☆♡♡

んおお〃お〃ッ♡☆♡☆♡☆♡♡」

もちろんオラつき度合もさっきよりもパワーアップ♥

凜奈ちゃんが半失神状態で断末魔のような喘ぎ声を上げていてもお構いなしに腰を振り下ろし続けます♥

「ふぬッ♥♥♥♥♥🔥🔥 ふうん〃ッ♥♥♥♥♥🔥🔥 くひッ♥♥♥♥♥

ほおお〃お〃お〃ッ♥♥♥♥♥ やべやべやっべッ♥♥♥♥♥

もうザーメン昇ってきたッ♥♥♥♥♥ うひッ♥♥♥♥♥

このッ♥♥♥♥♥🔥 もっと楽しみてえのにてめえのまんこ具合良すぎて

もうザーションベンアガってきたじゃねえかッ♥♥♥♥♥🔥🔥

罰として今日は孕むまで絶対家に帰さねえからなッ♥♥♥♥♥🔥🔥

一日中キメセク交尾すっぞッ♥♥♥♥♥🔥🔥 オラッ♥♥♥♥♥🔥🔥

オラアッ♥♥♥♥♥🔥🔥」

——どちゅどちゅどちゅどちゅう〃ッッッ♥♥♥♥♥🔥🔥🔥

理不尽に凜奈ちゃんを怒鳴りつけながら、ラストスパートと言わんばかりに腰振りピストン速度を速めます♥

そして——♥

「あゝ〜くっそイクイクイクイククッ♥♥♥♥♥♥♥♥

騙して違法ドラッグ飲ませた中学生まんこにアイドルザーメン

排泄キメるッ♥♥♥♥♥♥♥♥ うおゝおゝッ♥♥♥♥♥♥♥♥

ほおおゝおゝおゝ〜ッ——♥♥♥♥♥♥♥♥」

どちゅどちゅどちゅッッどっぢゅうんッ♥♥♥♥♥♥♥♥

……ばびゅッ♥♥♥♥♥♥♥♥ どべびゅちッ♥♥♥♥♥♥♥♥

ほびゅぶびぶびよおッ♥♥♥♥♥♥♥♥

「んおおおゝおゝおゝおゝ〜〜ッッ?!?!?!♥♥♥♥♥♥♥♥」

射精開始と同時に、私も凜奈ちゃんもこの世のものとは思えないくらいきったない下品イキ声を上げてしまいました♥

あまりにも膨大すぎる快感が全身を駆け巡ります♥

「ぬひっほッ♥♥♥♥♥ のっほおお”オ”オ”ッ♥♥♥♥♥  
やべやべやべッ♥♥♥♥♥ これマジでやっべえッ♥♥♥♥♥  
気持ち良すぎてチンポ溶けるッ♥♥♥♥♥ んほッ♥♥♥♥♥  
ほおお”お”お”ッ……♥♥♥♥♥」

「うぎゅッ♡♡♡♡♡ はぎっひッ♡♡♡♡♡  
んおお”お”っ、ほおお”お”お”う”う”ッ♡♡♡♡♡」  
——どちゅんッ……♥♥♥♥♥ どちゅんッ……♥♥♥♥♥

射精中も体重を乗せたピストンは止めません♥

最後の一滴を絞り尽くすまで、おまんこを使ってチンポ快感を貪ります♥

「くひッ……♥♥♥♥♥ じっ、人生成功してよかったあッ……♥♥♥♥♥  
もうヤクキメ交尾がない生活とか絶対考えられませんッ……♥♥♥♥♥  
事務所が守ってくれるから何シても別に大丈夫だしッ……♥♥♥♥♥  
あっそうだっ、まだ女子小学生喰ったことなかったから今度連れ込んで  
キメセクしちやおッ……♥♥♥♥♥ うひッ♥♥♥♥♥ 想像しただけで  
サイテー過ぎてザーメン止まんねえわッ♥♥♥♥♥ ほひッ♥♥♥♥♥  
うお”ッ、ほおお”お”お”ッ——♥♥♥♥♥」

どばびゅッ……♥♥♥♥♥ びゅぐりゆるるッ……——♥♥♥♥♥

……これが私の誰にも言えない秘密です♥

もちろんこの後も凜奈ちゃんを使って楽しみ尽くしちゃうのでした——♥